

合崎橋の架け替えに伴った 高欄デザイン募集について

高山市 基盤整備部 建設課

はじめに

今回、高山市が老朽化した橋梁の架け替えに伴い、「今まで以上に市民から親しまれ、愛される橋」となる事を願い、橋の高欄デザインを公募により決定した事例を紹介します。

1. 高欄デザインを募集する事となった経緯について

合崎橋は、沿線の高等学校や看護学校及び総合病院への通学・通院に長年利用され、特に県立斐太高校の卒業式の伝統行事である“白線流し”では、橋がその風景の一部となっています。

この“白線流し”は、これまでにテレビドラマや小説に取り上げられたり、毎年ニュースで紹介されるなど全国的に知名度の高い冬の風物詩となっています。

このため、地元での事業説明会や市議会において、「新しい橋には夢のあるデザインの提案を募集してはどうか」との意見が出されました。市としても地域の皆様に愛される橋を作るという観点からこの意見が有意義であると考え、デザインを公募をする事としました。



下流より上流全景左岸より



上流より下流全景

2. デザインの公募の内容

高山市では、今までにデザインの公募を行った例は無く、全国の自治体による様々な施設デザインの募集要項を参考に、市内部の各部署と協議を重ね今回の基準要項を作成しました。

デザインのテーマは市で指定せず、自由に募集する事としました。またデザインの選定は、地元関係者や近隣学校関係者と協議し、設計士による構造検討を行った上で、最終的に市が決定する事としました。

応募資格については、個人または個人のグループ（法人や企業以外）とし、市内だけでなく、市外在住の高校卒業生や、高山を応援したい方からの応募も考え、全国どこからでも応募していただけるよう、インターネットや市発行の広報誌を用いて公募する事としました。

デザインの募集は、防護柵としての構造上必要となる強度や高さなどについては、対象外としました。歩車道境界用の高欄については、歩行者の視認性を考慮し、色彩のみの募集とし、車道用はパネルと色彩、歩道用は、構造上の自由度が大きいパネルや色彩だけでなく、全体のデザインも対象としました。

3. 募集結果とデザイン選定作業

デザイン募集は、平成24年6月1日から平成24年8月31日までで行い、87件の応募がありました。

その内、現役高校生（斐太高校生）の応募が81件、その他の応募は6件でした。また、高山市外からは13件で、一番遠方は岐阜市の方で、斐太高校の卒業生でした。

応募された作品を集計した結果、以下のテーマに分類できました。

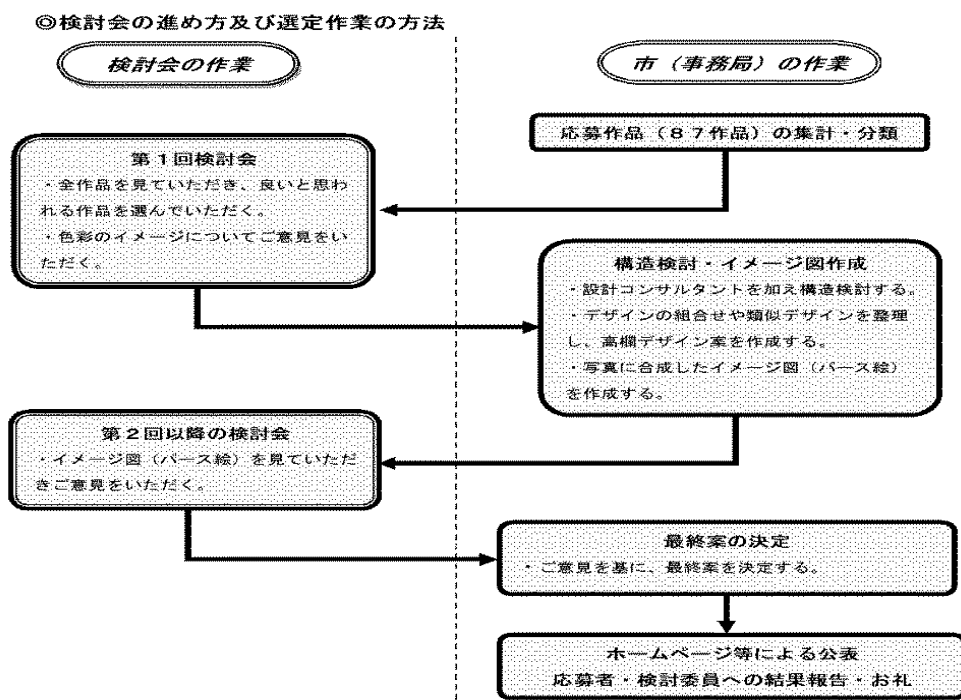
- | | |
|-------------------|-------------|
| ① 斐太高校をイメージした作品 | 28件 (32.2%) |
| ② 高山市の自然をイメージした作品 | 34件 (39.1%) |
| ③ 幾何学的なデザイン | 14件 (16.1%) |
| ④ 高山をイメージした作品 | 3件 (3.4%) |
| ⑤ その他 | 8件 (9.2%) |

この募集結果を踏まえ、デザインの選定作業を行いました。選定にあたっては、地域代表の方、及び学校関係者の方に検討委員を依頼しました

また、オブザーバーとして、デザインに関して専門的な知識を有する他の高校の美術教諭に、また、景観施策の観点から市の都市整備課長、整備後の維持管理の観点から同維持課長に参画を依頼しました。

検討会では、多くの応募作品から段階的に最終案に絞り込みを行いました。

検討会の進め方とデザインの選定の進め方については、以下のフローのように進めました。



・第1回検討会（平成24年10月29日開催）

デザイン募集結果（前述）を検討委員に報告し、市からは、選出前に一般的な橋と比較して特異なデザインでないもの、斐太高校だけの橋ではないので、斐太高校が前面に出たものではないものを選出させていただくよう依頼をしました。その後、各委員が持つ合崎橋のイメージを基に、デザイン性・主張性などの観点から各々3～5作品を選出していただき集計しました。



作品張出状況



検討会状況

※結果

87作品から13作品を選出しました。選出案を市で構造（強度）他について検討し、構造上製作可能である作品についてパースを作成し第2回検討会にて絞り込みの作業を行う事としました。

- ① 高校がイメージされている作品 8作品
- ② 自然がイメージされている作品 3作品
- ③ 高山がイメージされている作品 2作品

・第2回検討会（平成24年12月3日）

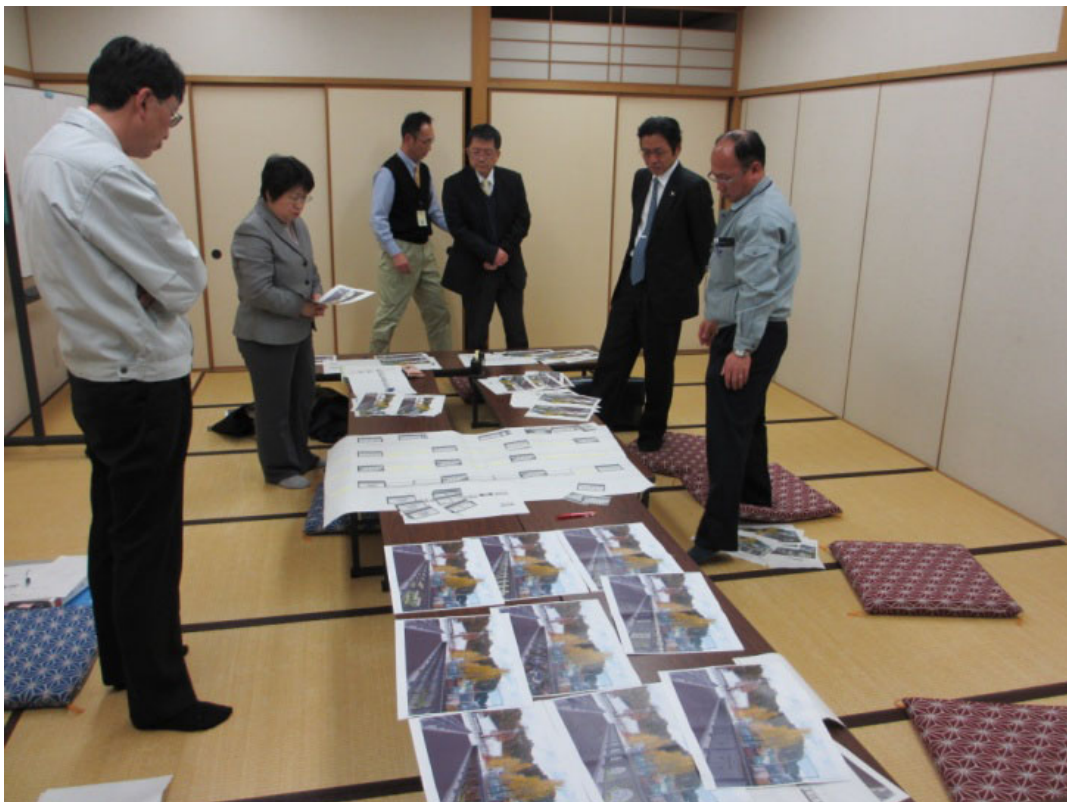
構造等の検討を行った結果4作品を除外し、残りの9作品について作成したデザイン画とパースを委員に見ていただきました。

選出の前に、オブザーバーである美術教諭から事前に次のアドバイスをいただきました。

- ① 同パターンのデザインの連続は、長期間見ていると“くどさ”を感じる方も居ると思われる。そのため、デザインの無いプレーンなものを入れて、息抜きをすると良いのではないか。
- ② 複数のデザインを混ぜて考えても良いのではないか。

また、市からは、第1回検討会で選出された作品の中で、車道側に使えるデザインは構造上限定されるので、車道側に使えるデザインを2作品提案しました。

オブザーバーからのアドバイスにより、高欄の配列を大きく図化し、各デザインを配列し、検討委員がイメージしやすいようにして選出作業を行いました。



第2回検討会状況

(手前は各デザインのパース。奥は、配列図にデザイン画を配列している様子)

※結果

応募されたデザインは斐太高校をイメージする物と、自然をイメージする物が多数を占めていた事、また、検討委員が持つ合崎橋のイメージについても、斐太高校や高山の自然をイメージする意見が多数であった事から、

- ① 斐太高校（白線流し）
- ② 周辺の豊かな自然

をイメージするデザインの中から選考する事とし、その結果、①については、最終的に残った2つのデザインは甲乙つけ難く、また、2種類程度の変化はあっても良いのではないかという判断から、双方を選出し、標準タイプ（プレーン）の高欄を間に入れシンプルで飽きのこない配列としました。（歩道部高欄パース及びデザイン画参照）

車道部については、車両の衝突に耐えるため、横梁を設ける必要がある事からパネルの一部が隠れてもデザイン表現に支障が無いものを選出し、歩道と同様にデザインの無い標準タイプ（プレーン）を間に入れる配列としました。（車道部高欄パース及びデザイン画参照）



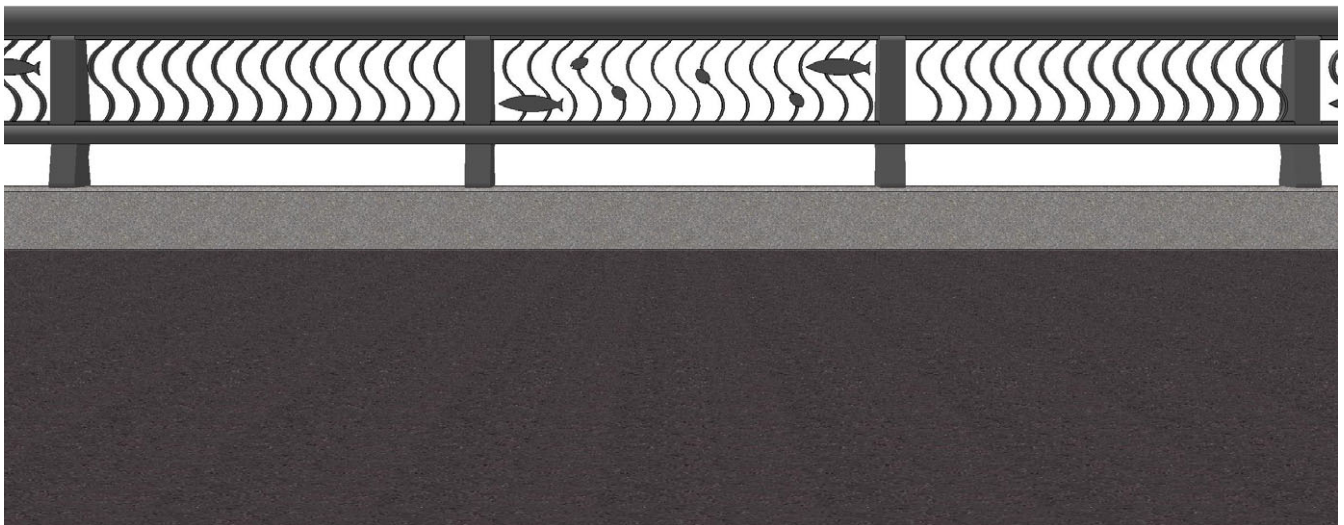
歩道部高欄パース



歩道部デザイン画



車道部高欄パース



車道部デザイン画

この案を検討会案とし、この案を基に市内部で意思決定を行いました。

4. 最後に

現在、決定したデザインパネルを「飛騨の匠の職人の技」で製作できないかを検討しているところです。今回の高欄デザインの公募からデザインの選出作業に至るまで、高山市では前例がなく、手探りの状態で進めたこともあり、非常に時間は要しましたが、官民が協力してひとつの物を創り上げる機会を持てたことは、今後、住民に親しまれる社会資本整備を進める上で、大切な経験になったと思います。